

皆さんは、喜多方・山都と聞いたなら何を思い浮かべますか。ほとんどの人は、喜多方といえば「喜多方ラーメン」、山都町といえば「そばの町」を思い浮かべるでしょう。しかし、そのようなみ力あふれる私たちの町でも、人口減少にともない、空き家が増えているという問題があります。

私が空き家の問題について知ったきっかけは、おばあちゃんとの会話でした。おばあちゃんが小さい頃に住んでいた家が、今は空き家になっていると聞いたのです。

「あなたがまだ生まれていない頃に引っこしたのよ。」

そう聞いた私は、

「なんで空き家なのにこわさないの。」

と聞きました。すると、おばあちゃんは、

「こわすのにも何百万円もお金がかかるのよ。そんなお金、なかなかねえ。」

と、教えてくれました。私はそのとき、空き家をこわすことにも大きなお金が必要で、こわしたくてもこわせない人がたくさんいることを初めて知りました。

このことについて気になった私は、喜多方市の空き家について調べてみました。すると、令和七年の調査では、市内には一八〇〇件以上の空き家があることが分かりました。これほど多くの空き家があることに、とても驚きました。空き家が増えると、建物や土地が活用されていないので、もったいないと思いました。そして、その背景には人口減少があることも分かりました。

私は、この問題を解決するためには、喜多方・山都のみ力をもっと多くの人に知ってもらい、移住する人を増やすことが大切だと思います。移住する人が増えれば、空き家が新しい家やお店として活用され、町がもっと元気になるのではないのでしょうか。

そのために、インターネットやSNSを使って、喜多方・山都のみ力を積極的に発信するとよいと思います。ラーメンやそばだけではなく、自然が豊かなことや暮らしやすいこと、農業が盛んなことなども伝えたいです。

例えば、農業に必要な物がそろうお店もたくさんあり、農業を始めたい人にとって便利な環境があります。こうしたみ力を知ってもらえれば、「この町で暮らしてみたい」と思う人も増えるかもしれません。

空き家は、家を持っている人だけの問題ではなく、私たちが暮らす町全体に関わる大きな課題です。だからこそ、私たち一人ひとりが地域のみ力を伝えることで、「住み続けたい町」、「住んでみたい町」をつくっていくことが大切だと思います。

私も、これから喜多方・山都のよさを多くの人に伝えられる人になりたいと思います。